

intersezioni

日本とイタリアの交点

過去と現在におけるイタリアと日本の交流にスポットライトを当て、『日本とイタリアの交点』というイメージのもと、近刊書をもとに両国の繋がりを歴史や社会などの側面から掘り下げます。専門家のみならず、それぞれのテーマに興味を持つ人を広くターゲットとし、著者自身と専門領域の近い研究者のあいだで、本をめぐって対話します。

出版記念セミナー

diplomazia dell'arte dal Regno d'Italia al Giappone Meiji

イタリア王国の 美術外交と日本

河上眞理著『工部美術学校の研究』
(中央公論美術出版、2011年)をめぐって

明治日本において「お雇い」として美術を教えた人々、そしてその背景にあった日本とイタリアのあいだに展開した一種の「美術外交」に関わった両国の機関、人物、教育活動、同時代の美術の理念などについて紹介する。

工部美術学校は日本初の官立西洋美術教育機関であり、画家、彫刻家、建築家の3人のイタリア人教師を招いて1876(明治9)年から1883(明治16)年の間に開設された。

なぜ、美術学校が殖産興業政策を担う工部省に置かれたのか。なぜ、それが西洋美術の教育機関という形をとったのか。なぜ、イタリア人が教師となったのか。ここでは、「美術」概念を巡る認識の生成プロセスが影を落としている。また、日本国内における政策上の思惑が錯綜している。

こうした枠組みにおいて工部美術学校に対するイタリア王国の対応とイタリアにおける教師選抜の実態、5名のイタリア人教師の経歴を明らかにする。

2012年9月21日(金)

18:00-19:30 開場17:30

朝日新聞ビル1階 アサコムホール

大阪市北区中之島3-2-4

講師 河上眞理(京都造形芸術大学芸術学部准教授)

コメンテーター 芳賀徹(東京大学名誉教授)

司会・解説 シルヴィオ・ヴィータ(京都外国語大学教授)

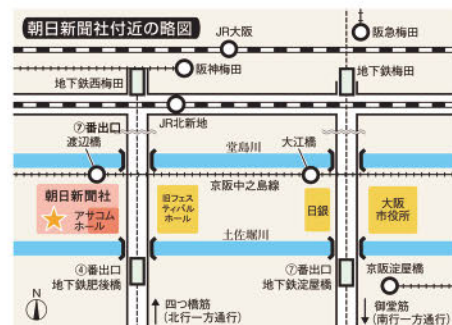
入場無料・事前予約制

氏名・メールアドレス・電話番号を明記の上、下記へメールまたはFAXにてお申し込み下さい。(先着順・前日締切)

メール:iseas@iseas-kyoto.org FAX:075-751-8221

お問合せ

イタリア東方学研究所 075-751-8132(平日10:00-13:00、14:00-17:00)



会場アクセス

地下鉄四つ橋線 肥後橋駅4番出口すぐ
京阪中之島線 渡辺橋駅7番出口すぐ